



2014「地球のステージ」翔陽公演＊感想特集

新年号は、県の人権・同和教育研究指定校と高P連「PTA活動」育成事業の共催で、昨年12月5日に開催された地球のステージの感想をお届けします。今回が初めてという人も、何度も見た人も、また、生徒・保護者・教職員と立場も異なりましたが、みな大きく心を揺さぶられ、さまざまな感想をいただきました。

当日は、PTA会長の今井さん、生徒育成委員長の水津さんのほか、保護者の方3人が鑑賞され、ステージ後の談話会にも出席していただきました。その会で桑山さんが「自身の学生時代を語ることで、若い人たちにさらに身近に感じてもらいたい。」と言われていたように、私たちの想像を絶する紛争下や被災地に生きる人々を、つねに等身大の視点でとらえ、まるで隣人のように見せてくれました。だから私たちは、ステージの始まりと同時に一気に引き込まれたのではないのでしょうか。

❖ 生徒の感想より

- ・東日本大震災から4年がたって、たくさんのことを忘れてしまっていたことに気がつきました。たくさんのが消えて、たくさんの方が亡くなって、辛い思いをした人がたくさんいたということを忘れかけていた自分に悲しくなりました。高校に入って面倒だなと思いながら過ごす毎日。そんな高校生活を過ごしたくても過ごせなかった人たちがたくさんいたということを決して忘れてはいけなと思いました。亡くなった人たちが過ごせなかった高校生活に感謝しながら毎日を生活していこうと強く思いました。(1年女子)
- ・被災地のことを見ると、自分らの悩みってちっぽけだな、前を向かないといけななって思いました。この公演で視野が広がって世界を見渡した気分になったし、一つひとつの大切さを感じました。(3年男子)
- ・津波で子どもを亡くしたお母さんが、「私が生きてごめん」と言った言葉は胸に響きました。親より子が先に死ぬことは悲しいことだと思いました。(2年女子)
- ・“苦しいことがあっても必死で生きる”今日の公演で心に残った言葉です。自分は今あまりにもついてなすぎてなえてますが、涙のあとには笑顔があると信じて生きていきたい。(2年男子)
- ・被災地へのボランティアや海外の難民キャンプの支援活動など、そこに行かなければ分からないことを聞いてよかったです。現地の人たちの心のケアなどをする活動はすごいなと思いました。(1年男子)
- ・最後の震災のところが一番印象に残りました。久しぶりに震災が起こった場所の映像を見ました。中学生が撮った映像で聞こえた人々の声がすごくリアルで、心に残りました。桑山さんが言っていた、「震災は忘れてしまうかもしれないが、震災で学んだことは決して忘れてはいけない」というのが一番印象に残っています。(1年男子)
- ・今日のステージを聞いて、改めてものの見方や自分の生き方について考えさせられました。僕は今まで、他国は紛争が起きてたいへんだくらいにしか感じていませんでした。けど実際には家が壊され、親が殺されて子ども一人だけになった人もいて、自分の考えていたよりも苦しい状況なんだと考えさせられました。自分たちが何気なく着ている服や食べ物も満足に得られず、僕たちがどれだけ恵まれているか分かり、これからもっといろんなものを大切にしていきたいです。また、桑山さんの話を聞いて、途中であきらめずに何かに挑戦することで、人生を変えることができるんだと感動しました。僕はこれから簡単に死ねなどとは言わず、自分の命と相手の命の両方をしっかり考えて生きていくようにし、ボランティアなど自分にできることがあれば進んでやりたいです。(1年男子)

- ・私が12歳の時は、こんなにしっかりと自分の思いを人に伝えられていただろうか。紛争や被災地の子どもたちを見て、そう思いました。厳しく困難な環境で生活しているのに、皆まっすぐな目をしていました。また一人ひとりが夢を持っていて、実現するために頑張っていることも分かりました。私も今、夢を持っています。自分の夢を叶えられるよう日々成長していきたいです。(2年女子)
- ・最初の方は現実味がなくて、ただ、こんな世界で生きている人もいるんだな、この人たちは強く生きているな。それに比べて日本人は弱いな。などと、どこか自分の生きている世界とは違う所だと思っていました。でも、最後の東日本で起きた津波の動画を見て、がれきの山になった町なみを見て、これは現実なんだ。さっきの映像の中にいる人たちも、今生きているんだと思い知らされました。生まれ育った町が跡形もなくなり、家を、親を失った。そんなことが一度にふりかかってきたらと思うと、とても恐ろしく感じました。今日の公演で東日本大震災という言葉が久しぶりに聞いたように思います。あれだけの被災があり、あれだけたくさんの方が亡くなっているのに、5年もたたないうちに忘れてしまっていました。今日の公演のことは忘れられそうにありません。どんなに環境が変わっても、強く生きている人がいること。自分も頑張って生きていこうと思いました。(3年女子)
- ・今まで悪いイメージしかなかった紛争の続くイランのような国に対する気持ちが変わりました。優しい人々はその国にもいて、戦争等で家が壊れても、家族を失っても、必死に生きている人がいる。そんな人がいると思うと、自分にも何かできないかと考えさせられます。(2年男子)

❁ 保護者の感想より

- ・「人と比べるのではなく、前の自分と今の自分を比べろ」という言葉がとても印象に残りました。自分をゆっくり見つめ直してみます。
- ・人権問題についての講演会に参加する機会が何度もありましたが、ここまで話に引き込まれたのは、初めてだと思います。桑山さんのお話は実体験に基づく内容で、保護者や教職員だけでなく、生徒も考えさせられ、将来の夢や生き方について学べたのではないかと思います。
- ・学校から帰った子どもに聞くと、とても感動していたらしいので、正直安心し、会場のみなさんがとても良い人たちばかりに思えてしかたありませんでした。「息子たちよ！顔をあげてチャンスをつかめ！」今日の出会いに感謝です。
- ・昨年グラントワで見たのが初めてでした。桑山さんの世界規模の支援活動を知り、衝撃を受けました。生々しい映像と、それとは相反する桑山さんの優しい語り口と歌声とがずっと入ってきて、今まで持っていた命への愛おしい感情を真髓から揺さぶられました。今年は翔陽公演と翌日のグラントワ公演と連日見せて頂きました。改めて自分に出来ることは何かと考えさせられました。今出来るのは、周りの誰でも個性があるという事を常に頭に置き、全ての人に笑顔で接していけたらと思っています。

❁ 教職員の感想より

- ・地球のステージを見るのは3回目でしたが、毎回感動で涙が出ます。世界がとても近くに感じられ、遠くで起こる紛争や災害も本当に隣人の悲しみのように思えます。「想像力が足りない」といつも生徒に言っていますが、地球のステージを見ると、自分自身も想像力が足りていないことに気づかされ、人の苦しみや喜びに共感できる人でありたいと思います。
- ・現地に行き、そこで暮らす人々と関わることで、「何とかしなければ」という行動力につながっていくのだろうと感じます。「かわかること」のかたちは、人によって様々あると思いますが、現地に行けなくても、そこに住む人々の思いを想像することが人権を尊重することにつながり、それができる人間でありたいと思います。
- ・桑山さん自身の高校時代の話は、今の高校生にとって一番共感できる場面だったと思う。医師や歌手の桑山さんではなく、一人の高校生として悩み苦しんだことが伝わり、今の自分に置き換えて考えたことだと思う。大きなエネルギーを桑山さんに頂き、生徒も何かやってみたいと思ったようであった。勉強でも、部活でも、掃除でも、自転車一周旅行でも、何でも挑戦してほしいと思う。